

令和7年度 高知県立大学リ・デザイン プロジェクト 採択結果

プロジェクト名	プロジェクトメンバー(学内)	概要	採否	助成決定額
親子で学ぶ「いのち」と「性」:BEP カードで始める性教育サロン	看護学部 助教 徳岡麻由 看護学部 教授 久保田聡美 看護学部 准教授 中井寿雄 看護学部 助教 塩見理香	「Beans Education Project Card」(BEPカード)を活用し、親と子が一緒に「いのちの始まり」について学べる定期的な勉強会を開催する。単なる知識提供だけでなく、参加者同士の交流や専門家への相談の機会を設けることで、親が自信を持って子どもに性教育を行うためのサポートを目指す。具体的には、子どもの発達段階に応じた性教育のコンテンツを紹介し、家庭での生(性)教育についてともに考える。親から子へ、子どもが自身のからだや性を理解し、性を自分で守り選択できる手段を伝え、子どもの性トラブルを予防することで、生涯に亘りセクシャルウェルネスを保つことのできる社会の実現を目指す。参加者には家庭での性教育実施に関する困りごとや悩み、ニーズについてアンケートを実施する。参加者同士で子どもへの性教育や性に関する悩みや体験を共有し、学びを深めることのできる機会を設ける。また、学生と共に活動し、学生が看護職の地域活動の実際を知ることで今後、教育現場と地域現場との連続性のある学生指導につなげるための着想を得る。学生は地域の中で対象を理解し、家族発達や健康を支える看護について理解を深める機会となる。	採択	298,000 円
フレイルの多面性に着目した生活習慣とフレイルの関連の検討 —フレイル予防からはじまる健康のリ・デザインプロジェクト—	看護学部 教授 立木隆広 健康栄養学部 准教授 島田郁子 看護学部 助教 中井あい 看護学部 助教 加藤昭尚	世界的に高齢化が進む現代、フレイル(frailty)は最も重要な健康問題の一つとなっている。近年、フレイルは、身体的フレイルのみならず精神的・心理的フレイル、社会的フレイルといった多面性があるものとして捉える考えが浸透してきている。生活習慣の悪化は、フレイルのリスク要因として注目されている。しかし、生活習慣とフレイルの多面性(Multidimensional frailty)の間の関連についてのエビデンスは不足している。さらに、フレイルはこれまでに高齢者に起こる健康問題と捉えられてきているが、中年者の間でもある程度、存在することが報告されている。すなわち、高齢期のフレイル予防と同時に中年期のフレイル予防も必要とされる時代に突入しており、そこに必要なエビデンスの創出と構築は喫緊の課題となっている。そこで我々は、中年期と高齢期の地域在住日本人を対象に生活習慣とフレイルの多面性(Multidimensional frailty)との間の関連を検討することにした。さらにこの検討結果を基に新たなフレイル予防の立案を行うことを目的とする。高知県では、「日本一の健康長寿県構想」の下で幾つかの事業が進められている。その一つとして「健康寿命の延伸に向けた意識醸成と行動変容の促進」があり、その中で取り組んでいるのがフレイル予防の推進である。日本一の健康長寿県構想の第5期 Ver.2でのフレイル予防の推進としてフレイルを早期発見・介入をあげているが、フレイルの多面性を見落とさずに早期発見・介入することが必要となってくる。本研究は、この点や今後対峙する問題に必要な基盤情報を先駆的に検討する挑戦的な研究であり、本研究成果をもって日本一の健康長寿県構想に寄与することも目的としている。	採択	600,000 円